

山行報告書

通算山行NO	NO・112 S	報告者	河合依代
年月日	'97年10月9日(木曜日)～	年10月11日(土曜日)	
山行名	秋山合宿 S隊	天候	晴れ
山名	西穂高岳西尾根～西穂高(2,908.6m)		
この山のセールスポイント	やせ尾根で急登だが変化に富んで面白い尾根。西穂直下の岩壁はスリルがある		
コース及びタイム	10/9裾野 13:00～新穂高温泉 19:00 10/10起床3:30⇒ゲート 出発4:50⇒穂高平 5:20⇒西穂高岳 13:15(16:45) ⇒テント場 13:30(17:00)		
標高差	△S ゲート (1,185m) T西穂高岳 (2,908.6m)	≒1,723.6 m	体力度 1・2・3・4・⑤・6
	▼T ~G	≒ m	技術度 1・2・3・4・⑤・6
走行距離	裾野市役所～新穂高温泉	≒300km	展望度 1・2・3・4・5・⑥
参加者	CL 後藤 隆徳 50	ハードな山だった	
	SL 大根田元男 61	ガラ場の藪漕ぎ、大変いい山だった	
	河合 依代 50	体調が悪く皆に迷惑かけた。一緒に歩いてくれた大根田さんに感謝	
	加藤 秀子 48	藪漕ぎは面白い。天気の変り目の早さに自然の驚異を感じた	
	高岡八千代 60	急登が多く大変な山だった	
会員5名・一般名・合計5名			
第一日目	<p>CLの運転する車に加藤・河合を乗せ裾野市役所を出発。御殿場で大根田・高岡乗り込む。清々しい秋晴れ。天気予報では明日も良好。然し11日土曜日は崩れる模様。大月から中央道へ。ハヶ岳PAでトイレ休憩。CLから加藤に運転交替。乗鞍への道が雪の為通行止め。連休、秋の高山祭り、中の湯付近安房峠のトンネル工事で一方通行の為大渋滞。ここで加藤からCLに運転交替。何とか動き出したが前が大型トラックなのでカーブでの切返し難しい。後の車はカーブで必要に我々の車の斜め横に付けてくる。うるさいので先に行かせる。</p> <p>峠の途中、山間に明日登る穂高連峰がくっきり見え、皆心が踊る。新穂高温泉着。夕食の為食堂を探すがラーメン屋もない。やっと見つけた喫茶店で食事にありつく。ビールが美味しい。カツ定食(男性)とカツ丼(女性)でお腹を満たす。</p> <p>深山荘前の多目的広場が駐車場で幕営禁止になっている。以前はここにテントが張れたそう。幕営場所無し。取敢えず車の横にテントを張りお風呂に行く。男性は野天風呂に直行。女性3人は分からないので宿の人に聞いた為1人300円取られてしまった。入浴後テントに戻り一杯飲みながら明日登る山の話、歩けるかな?と不安が心をよぎり『私皆の</p>		

足を引っ張りそう』と口に出してしまう。ここの所寝れないし体調が不安定で自信がない。不安を胸に加藤と2人で毛布にくるまり眠りに着く。途中足が寒いのと場所が変わって寝れないのか何回も寝返りをうつ。うとうとしかけた頃誰か呼ぶ声で目が覚める。ここの管理人が巡回してきて幕営禁止場所にテントを張っていたので注意され撤去。車でゲート前の林道に移動、テントを張りなおし再び寝る。『時間だぞ』CLの声で起床。寝不足なのか頭がボーとしている。みそ雑炊で朝食。しっかり食べ心も身体も温まる。テントを片付け荷物のパッキング計測。CL、大根田、加藤の荷は重く20kg以上、高岡・河合は18kg。トイレを済ませ荷を背負う。重い！！

トップCL、2番高岡、3番加藤、4番河合、ラスト大根田の順でヘッドランプを頼りにゲート出発。皆快調。河合は足が重い。いつもの調子ではない。林道から穂高平への登山道に入る。頭がボーとし血の気が引いてくる。汗は出ない。貧血状態だ。何とか穂高平までついて行く。まだ20分しか歩いていない。1時間歩かないと駄目かな？と思いつつ進む。

1,350m地点、穂高牧場で牛に出会う。西尾根取付きは穂高牧場上部で1,946m峰の南の尾根、刈払いがしてあり道は良い。1,946m地点ここからは背丈以上もある根曲がり竹(笹)を手でかき分けての藪漕ぎ、中々大変だ。河合は皆について行けず遅れること15分。バテバテで記録など付ける余裕なし。元気のいい加藤に記録を頼む。『河合はバテたと書いておいて』と言ったら『達者な口を聞いていた』とおまけに書かれてしまった。CLから『車に戻るなら今のうちだぞ！後は遭難だ』と激が飛ぶ。ここから1人で戻ろうかと気持ちが揺れる。でも何故か足は皆の歩く方に進む。きつい登りだ。

加藤の明るい話声もだんだん遠くなり聞こえなくなった。『自分のペースでいいから休まないで歩け』と大根田に言われるが、どうしても足が止まってしまう。行けども行けども前の3人はもう待ってはくれない。喉が乾く。水が飲みたい。我慢していたがもう限界。『大根田さんお水飲んでもいいですか？』返事はない。涙が出そう。初めて歩けない人の気持ちが分かる。大根田が鬼に見える。そんな気持ちになる自分に腹が立つ。大根田こそ楽しい筈の山登りが河合のおかげで台無し、いい迷惑だと思われた事でしょう。

2,135m付近で初めて雪を見る。無線を入れるのを忘れていたので急いでスイッチをONにする。加藤から直ちに交信有り。きっと何度も呼んでいた事だろう。河合の調子を聞いてきたので悪い事を告げる。又どの付近を歩いているのか聞かれたが2人共高度計を持っていないので、大きな岩を乗り越えた所だと答えた。大根田に無線を渡しCLより登頂ルートの指示を受ける。3人は遙か彼方を歩いているようだ。

2,343m地点。ここから右を巻く大きな岸壁。急で非常に厳しい登りをP₁第1岩峰に向かう。大根田と河合はここで昼食にする。赤飯を口に入れたが苦くてまずい。無理して3口ほど

食べる。大根田を先頭に休み休みだが一歩ずつ前に進む。大きく右に巻くと西穂高岳が見える。P₁ 第1岩峰に向かう途中、西穂に立つ人影発見。声が聞こえるか加藤のようだ。『ヤッホー』と大根田。河合も見上げる。2~3人の人影。暫く歩いて又見上げる。腕組みをしてこちらを見ているのはCLのようだ。『河合！何をやっている！もたもたしないで根性を入れて歩け！』と言って睨んでいるように思える。時々見上げると未だいる。しっかり歩かなければ！！

加藤から無線が入り河合の体調を聞いてくる。河合はどう頑張っても西穂迄である事を告げる。山頂ではCLが今夜の幕営地を探すとの事。P₁ 第1岩峰で小休憩。西穂を見上げると、今までCLだと思っていた人影は頂上の標識である事が分かった。P₂ 第2岩峰を下り、いよいよ最後の西穂直下だ。CLの指示でアイゼン、ハーネスをつける。大根田ザイルを持ち雪の岩壁を登って行く。河合は加藤よりザイルを付けるように言われたが大根田が持って上がってしまったのでザイルの届く位置まで移動。CLが降りてきてザイルを付けてもらい、CLと加藤に山頂まで上げてもらう。

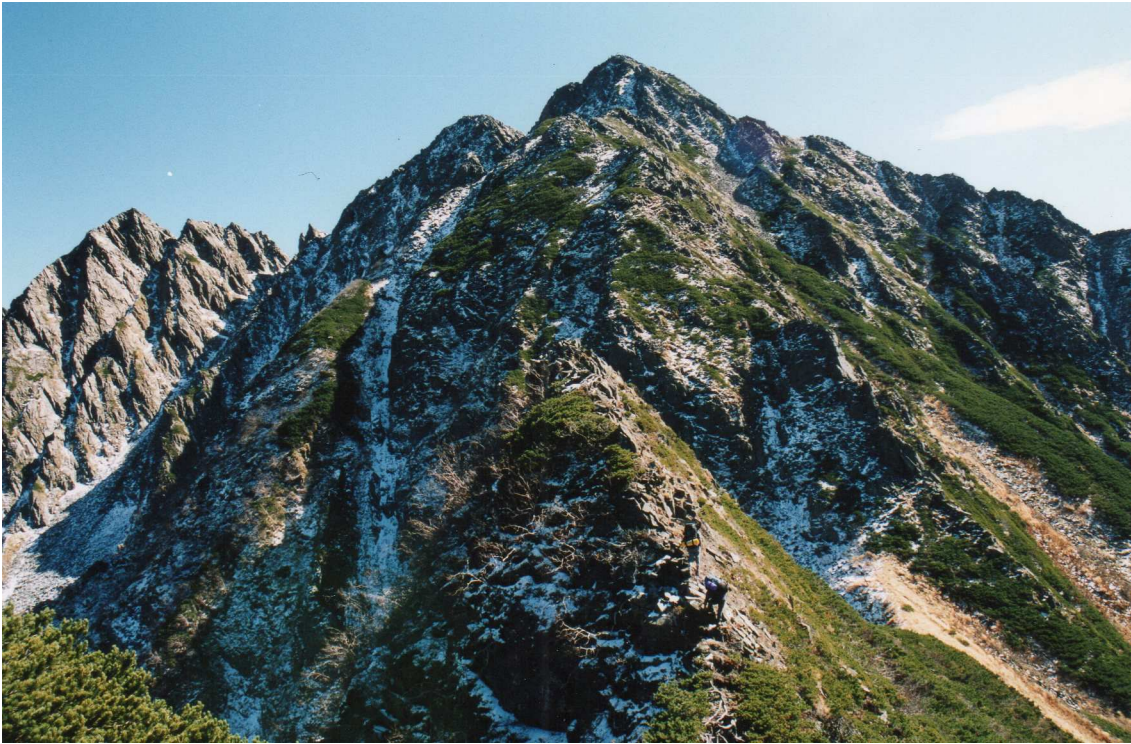
西穂北隣のピーク 2,900mの幕営地に着いたのは先行隊より遅れる事3時間30分。必要な物をザックから出しテント内に……。寒い！身体が震える。考えてみると17時着はタイムリミットぎりぎりだったと思う。大根田さん、此处まで連れてきてくれて本当に有難う。CL・加藤・高岡にも心配を掛けてしまい申し訳ない。皆有難う。

夕食に大きなジャガイモの入ったボルシチ、暖かくて美味だが疲れ過ぎて食欲がない。明日の為に何とか食べる。話す元気もない。河合が調子が良ければ、京の幕営地は天狗のコルの避難小屋跡だったのに本当に申し訳ない。皆はさぞかし残念な事だろう。CLに明日の調子を聞かれたが、歩き出してみなければ分からないので何とも言えない。とにかく疲れた。眠い。美しい夕陽を眺め、月明かりと星空の下で眠りに着く。

反省：自分の体調を考えて山行を決定する。

1. 西尾根を登る人は少ない。1,946m以上は背丈以上の根曲がり竹の藪漕ぎ。目印は赤布もしっかりあり良かった。
2. P₁ 第1岩峰の岩壁はは大きく右に巻く急登で非常に厳しい。
3. 西穂直下の岩稜は、やや悪く初心者はザイルが必要。





山名	西穂高 (2,908.6m)	報告者	加藤 秀子
この山のセールスポイント	ピラミッドピーク～西穂独標までの岩稜の尾根コースが晴れていると展望が素晴らしい		
10月11日～12日 コース及び タイム	起床3:30 / 出発6:10～テン泊地に戻る7:10～再び出発9:50～西穂頂上～ピラミッドピーク 11:40～西穂独標12:20～西穂山荘13:07～新穂高ロープウェイ発14:00～ロープウェイ着 14:50～新穂高温泉(入浴・食事) 20:00～(高山・野麦峠越え) 裾野翌5:30		
標高差	△S ～T = m	体力度	1・2・3・4・5・⑥
	▼T 西穂高岳～G 千石平 = 752 m	技術度	1・2・3・4・⑤・6
2日目 朝のうちに吹雪のち霰のち晴れ	起床の合図で身体を起こす。ゴロゴロの岩の上に薄いマットを敷いただけなので身体中の節々が痛い。メリメリいそう。風が強くテントがパタパタと音をたてている。外はガスの為視界は全くない。昨夜は満天の星空だったのにねと言いながら、昨夜の残りのボルシチに味噌汁を混ぜ合わせた雑炊を作る。摩訶不思議な味に下界では絶対食べないだろうなと思ったが、皆は『うん。いける。いける』と食べながら、何故か雑炊は残ってしまった。行動食用の赤飯弁当をアルファ米で作る。今日はリッチに小田特製の焼豚入りだ。 テントを叩く音が次第に強くなってきた。外を覗いてみると『わぁー真っ白!』思わず歓声上がる。ほんの僅かな時間にもう5cm程の積雪だ。『河合の体調も悪い、こんな天候ではジャングルム経由はとても無理だ。西穂から山荘まで下りロープウェイを使って下山する。積もらないうちに直ぐ出発だ。』CLの判断で皆テキパキと行動開始する。すぐ積もる雪を払いのけながらテントをたたみ、ザックのパッキングをし、目出帽、アイゼンをつけて出発。 西穂の頂上からの下りは、昨日見た時の感じと全く表情を変え、雪混じりの岩壁だ。『さぁー下りは厳しいぞ!自分の身体は自分で守るしかない。気合を入れて歩け!』強い口調のCLにピーンと空気が張り詰めた。急直下の足場をアイゼンを引っかけないようCLを先頭に河合・加藤・高岡・大根田の順に慎重に下り始めた。か吹雪で目を開けていられない。7～8m下った所で『これ以上はとても無理だ。面倒でも戻るか鉄則。テントを張って吹雪が止むまで待機する』とCLの決断があり一旦テン泊地に戻り再びテントを張る事になった。 テントに入り『帰れるかなぁ～』と話をしているとCLの姿がないのに気づく。なかなか入って来ないCLに急に不安になる。そこへ『今日は立派なヤツが出たぞ～』とのっそりと嬉しそうな顔で入ってきた。緊迫ムードは一瞬で大爆笑。知る人ぞ知る。東北ツアーではその『黄金』が腹に詰まって前代未聞の状態に陥り七転八倒したCLである。その事	展望度	1・2・③・4・5・6

を知っていたメンバーは良かったと言いながら、そんなCLにこれからの不安は吹っ飛びテントの中に明るい表情が戻ってきた。コンロを焚き、濡れた手袋、目出帽、靴下を乾かしながらいろんな話しに花が咲く。そのうちCL、河合はウトウトとうたた寝を始めた。外は相変わらずの本降り。テントを叩く音もますます激しくなってきた。

気がつくといつの間にか外は静かになっている。吹雪は止んだ。外を覗いたCLが『出発するなら今しかない』その言葉に全員パッと行動をおこす。テントをたたみ、手早く身支度。馴れたものだ。万全を期してハーネスを身につけての出発となる。

吹雪は止んだように思えたが、時折強い風にあおられる。浮き石に神経を使いながら手掛かり足掛かりを探し慎重に足を運ぶ。大根田・高岡は流石だが、どうも河合がいまいちだ。西穂直下の下りはザイルで確実に下降する。目につく岩にはエビの尻尾が綺麗に張りつき、厳しい状況下にあっても、その自然のなせる技に感心してしまった。トップで降りて皆を待つ間、登って来る一人の青年と出会う。目出帽は被らず髪の毛は霜がおりて真っ白だ。まるで霧氷だと思わず笑いがこみ上げる。アイゼンも付けず、これからジャンダルム経由で北穂まで行きたいと颯爽？と通り過ぎて行った。『ふ〜ん！』である。

ピラミッドピークが眼前に迫りあと一息というところでスラブ状の岩場にさしかかる。と前を登る河合が張り出した岩の上で手が滑った。岩をくの字に抱え込んだ状態では身体を支える事が出来ず『怖い。怖い』と訴える。丁度運よく河合の真下にいた加藤が頭とザックを使って河合の身体を受け止め、持ち上げて難を免れた。岩場の三方は切り立った絶壁である。背筋の寒さを感じた一瞬の出来事であった。

独標までの急な上り下りの岩場に緊張が連続する。声を掛け合いながらひたすら歩き、独標を過ぎる頃には風も止み、心なしか暖かく目出帽、アイゼンを外す。ポチポチ身軽な恰好をした登山者とすれ違い始める。ハイマツ・シャクナゲ・こけももの群生が見事な登山道を抜け西穂山荘経由で新穂高ロープウェイ駅まで一走り。ゴンドラは定員40人乗りで満杯だ。車を回収し安房峠の渋滞を予想して風呂にも入らず早々に出発。だが案の定の渋滞で引返し、高山経由野麦峠越えと覚悟を決め、先ず新穂高温泉の露天風呂でさっぱりと汚れを落とす。一軒しかないという探し歩いた食堂で、やっと熱燗で乾杯できた時『生きて帰れて良かった〜』と初めて皆で実感する。生身の身体を先ず潤おし、その店お薦めの『野麦ずしラーメン定食』を食べ、至福の一時を味わう。酒は地酒の『久寿玉』だ。この店で合計ぼっきり1万円也。

今回は行程を途中で断念し断腸の思いだが、反対に自分を省みる良い経験となった。厳しい状況下での的確な対応は、一朝一夕ではできないが、日々努力精進して知識を積み重ねていきたいと思う。山行に対して自分自身に厳しくありたい。そう痛切に感じた。

又歩けなかった自分が悔しい。皆に迷惑をかけた。今回の事で落ち込まず歩荷をして今度は頑張りたい。と申し訳なさそうに言う河合に皆でエールを送りたい。山行で苦しい思いをするのはみんな一緒だよ。だ・か・ら『頑張れ！KAWAI！』









NO. 112S 西穂高西尾根の記録

後藤隆徳

1. 安房峠は連休、高山祭り、乗鞍岳通行止、中の湯付近工事中で大渋滞。10日に松本を8時に出発して平湯着17時の人もいた。帰路 100km長い野麦峠経由で帰着。⇒連休の山行は避けたい。
2. 新穂高温泉深山荘前の旧多目的広場は駐車場となり幕営禁止⇒巡回者が来て深夜起こされる。⇒林道に張る。
3. 西尾根取付きは穂高牧場上部で1,946m峰の南の尾根。⇒分かりやすい。
4. 1,946m迄は刈払いがあり良。この上は笹が多い所もあるが、赤布もしっかりありません。⇒冬は良く登られているようだ。
5. P₁の岩壁は大きい。右を巻くが急で非常に厳しい登り。
6. 西穂直下の岩稜はやや悪く初心者はザイルが必要。
7. 後藤・高岡・加藤は13:15 西穂着。河合大きく遅れ17時着。⇒歩荷訓練必要
8. 直下の岩稜で大根田に無線でザイル操作を指示。しかし良く理解出来ず、結局後藤が下り河合を上げた。⇒ザイルワークを含めた岩トレ必要。
9. 幕営は西穂頂上の北隣のピーク(約2,900m)。テントがやっと一つ張れる広さ。⇒他にピラミッドピーク、独標に一張りのスペースあり。寝ごこちは岩がゴロゴロで朝首が痛かった。
10. 朝食中に雪が降り出す。風もあり吹雪となる。河合の体調も万全でないで下山を決定。6時過ぎ下山するが西穂直下の壁が悪く、吹雪で目も開けられず視界悪く、一旦引返し再びテントを張り待機。⇒下降に備え腹ごしらえ。
11. もし悪天候が続く場合も食料、燃料、水もありもう一晩大丈夫と確認する。
12. ロープウェイまで最悪4Hとし、タイムリミットを10時とする。9時前雪は止んだので再び出発。壁は悪いが吹雪いていないので楽。ザイルで確実に下る。⇒ザイルの結び方要練習。
13. ガスは時々切れるが相変わらず。雪と岩のミックスをアイゼンで下るのはイヤらしい。むしろ雪が多い方が楽。部分的にヤバイ所もあり冷汗。個人の技術の差が出る。⇒荷物を背負いアイゼンで岩場を下る訓練必要。
14. 何とか無事独標着。これで生きて帰れると思った。この下でアイゼンを外す。

【 ま と め 】

1. S隊参加の場合、女性でも20kg背負い沼津ALPS黒瀬から鷲頭山まで4H以内で歩ける体力が必要。
2. ザイルワーク、アイゼン装着での登・下降を更に訓練する必要あり。
3. 軽量化はほぼ達成できた。
4. 厳しい条件下でのテ泊、岩稜下降だが動揺することなく冷静に対応できた。
5. チームワークは円滑であった。
6. 西穂で終わったのは非常に残念であった。捲土重来。

【 タイム 】

- 10/10 起床 3:30 ~ゲート発(1,185m) 4:50~穂高平5:20~ 1,946m峰7:45~
西穂(先行隊) 13:15 ~テント場13:30(後行隊 西穂 17:00)
- 11 起床 3:00 ~第一出発 6:10 ~戻る 7:10 ~第二出発 8:50 ~ピラミッドピーク
11:40 ~独標12:20 ~西穂山荘13:07 ~ロープウェイ14:00



おわり